

山下清 — 放浪の旅へ



【清とお地蔵様】



◆ 飯

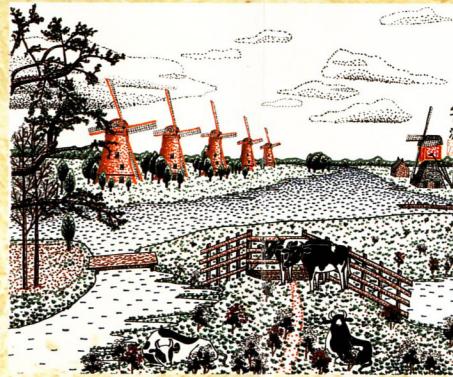
清は一食につき、茶碗に三杯飯と決めていた。飯を三杯腹におさめるまでは、一軒一軒物乞いを続けていくのである。

◆ 帰郷

放浪先でトラブルなどにあると、年に一度の割合で母の住む家や学園に戻り、作品制作や放浪中の日記をまとめて書いたりして生活をしていたが、長く留まろうとはせず、また、放浪の旅へと出発する。

◆ 放浪後期

清が世間に騒がれるようになってからは、宿泊や、食事のお礼に絵を描いてあげたり、また求められれば絵を描いて売るなどし、自分で稼いだお金で汽車に乗ったり、弁当を買って食べたりするようになった。わずかではあるが、清は絵で食べていけるという自信を持ちはじめる。



【オランダの風車】



【カマキリ】

◆ 脱走

八幡学園に入園してから、6年目の秋。18歳になった清は、徴兵検査からのがれるためと、学園の生活に飽きはじめ風呂敷包み一つ持つて、突然学園から姿を消した。これが自然児山下清の長い放浪生活のスタートだった。

◆ 道しるべ

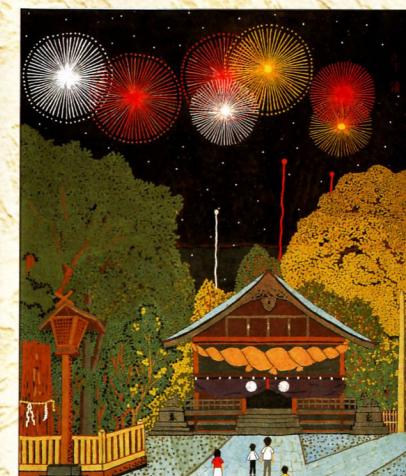
目的地までの大半を歩く放浪する清の道しるべは汽車の線路である。普通の道では迷ってしまうと、なかなか目的地に辿り着かないが、線路を歩いて行くと、そこには必ず次の駅があるという清の知恵である。

◆ 宿

放浪中は駅のベンチや神社の境内などを宿代りにし、時には野宿することもあった。そのため清は気候の変化に応じ夏は涼しい信州・東北地方へ、冬は暖かい四国・九州地方へと、まるで渡り鳥のように旅を続けた。

◆ リュックサック

リュックの中身は、浴衣や下着の着替えの他に、茶碗・箸・シャボン・手拭い、裁縫道具・磨き砂など、きれい好きな清の放浪必需品である。



【ひまわり】



◆ 放浪よ、さようなら

昭和29年、朝日新聞紙面で清の大搜索が始まり、鹿児島で発見された清は東京に連れ戻された。放浪打切りの契約書をかわしたにもかかわらず、たびたび脱走を繰り返したが一躍有名になった清は、以前のように自由に放浪することが出来なくなり、昭和31年、16年間に及んだ放浪生活に終止符を打った。

◆ それから…

その後、清は式場隆三郎氏の指導により陶磁器の絵付けや油絵・フェルトペインによる素描など制作分野を広げていった。また各地で開催された展覧会場でのサイン会や、テレビ出演、雑誌の取材など多忙な日々をおくる。放浪では、ほとんどの都道府県を歩いた清だが、有名になり初めての沖縄やヨーロッパ旅行が実現し、数多くの作品を制作していった。

式場隆三郎—山下清を世に送り出した精神科医

(1898—1965)

千葉県市川市国府台の式場病院（精神科）院長でありながら日本ではゴッホの研究家の第一人者でもあった。精神病理と芸術表現との関連の著述によって日本の美術批評に新たな領域を確立する。また八幡学園の顧問医として山下清と出会い、作品に关心を抱きその才能を世に送り出した。式場隆三郎との出会いがなければ、山下清の名が世に出ることはなかったであろう。

山下 清の略歴

- 大正十一年
三月十日、大橋清治・ふじの長男として東京市浅草区田中町で生まれる。
- 昭和三年（二歳）
重い消化不良にかかり歩行困難となる。三ヶ月後に治るが、それから少し砲りはじめるようになる。
- 昭和七年（十歳）
父清治死去。この頃から清の知能の遅れが目立ちはじめる。周囲から侮辱や嘲笑をうけ、劣等感に苦しみ抗的になつた。
- 昭和九年（十二歳）
杉並区和田堀の隣保館に母子ともに移る。近くの小学校に編入するも、再度のいじめを受け、千葉県東葛飾郡八幡町の養護施設である八幡学園に入園する。また母の姓に戻り山下清となる。
- 昭和十年（十三歳）
学園での手工の一つ「ちぎり紙細工」が記録的な入場者を集めた。全国から展覧会が開かれ大きな反響を呼んだ。全国各地を波乱万丈の放浪生活を送る。
- 昭和三十二年（三十五歳）
秋に早稲田大学で園児達の小展覧会が開かれ大きな反響を呼んだ。全国各地を波乱万丈の放浪生活を送る。
- 昭和三十三年（三十六歳）
十一月、清は突然学園から姿を消した。以後昭和三十一年まで十六年間にわたり放浪・帰園をくりかえし、全国各地を波乱万丈の放浪生活を送る。
- 昭和三十四年（三十六歳）
東京大丸で「山下清作品展」が開催され、記録的な入場者を集めた。全国から展覧会が開催の希望が殺到し、数年先まで予約で埋つた。作品は雑誌の表紙やカレンダー、ポスターに掲載され、各出版物も版を重ね「清ブーム」というべき現象をみせるに至つた。
- 昭和三十五年（三十七歳）
また、精神科医の式場隆三郎氏の指導により、五月から陶磁器の絵付けと、フェルトペインによる素描を始める。
- 昭和三十六年（三十九歳）
母や弟妹たちと住む世田谷に完成。記録映画「裸の天才画家山下清」が十月に封切り。
- 昭和三十七年（四十歳）
十月に封切り。
- 昭和三十八年（四十一歳）
六月に式場先生らとヨーロッパ旅行に出発。四十数日間に十ヶ国を周り、その時のスケッチをもとに五十点以上の作品を完成させた。
- 昭和四十年（四十三歳）
小林桂樹主演による映画「裸の大将」が四月に初め琉球（沖縄）へ旅行し、琉球の作品を制作する。
- 昭和四十五年（四十八歳）
六月に式場先生らとヨーロッパ旅行に出発。四十数日間に十ヶ国を周り、その時のスケッチをもとに五十点以上の作品を完成させた。
- 昭和四十六年（四十九歳）
夏になると、信州の知人の別荘に招待され、諏訪湖の花火大会を楽しみに見に行き、作品も多数残している。
- 七月十日夜、「こつぶやいた清」。その夜、突然の脳出血に倒れ、意識が戻らないまま七月十二日朝、二度と帰らぬ天国への一人旅に出た。享年四十九歳。